

第3回公立大学法人島根県立大学中期目標検討のための有識者会議 議事要旨

1. 日時

平成29年7月26日（水）14:00～16:00

2. 場所

島根県民会館 303会議室

3. 出席者

（委員）

古瀬座長、近藤委員、佐竹委員、青委員、竹内委員、宮崎委員、久保田委員

（専門委員）

山本専門委員

（オブザーバー）

春日オブザーバー、相山オブザーバー

（事務局）

松尾総務部長、野津総務部次長、藤井総務課長、高宮私学・県立大学室長、
井上企画幹、藤原企画員、梶主任主事

（公立大学法人島根県立大学）

清原島根県立大学理事長・学長、小池副理事長、江口副学長（浜田）、山下副学
長（浜田）、岸本副学長（松江）、梶谷看護学部長、石橋看護学研究科長、岩田教
務学生生活部長（松江）、名和田健康栄養学科長、山下保育学科長、鹿野総合文
化学科長、山崎事務局長、土井事務局次長、松村事務室長（出雲）、柴田事務室
長（松江）、福間企画調整室長

4. 議題等

（1）座長あいさつ

（2）松江・出雲キャンパスの現状について

（3）意見交換

5. 会議の概要

（1）座長あいさつ

- ・ 県内入学率、県内就職率の向上のためには、高校の進路指導における偏差値重視の方針を変える必要がある。
- ・ 地方創生で最も大事なものは、中山間地の人材であるため、推薦における地域枠の創設・拡充が必要。
- ・ 地域が求める研究テーマ、実践活動を進める必要がある。

- ・ 大学における、学長の権限強化及び監督機関の権限強化といったガバナンスの改革の議論が必要。

(2) 松江・出雲キャンパスの現状について

事務局から、参考資料1により松江・出雲キャンパスの概況について説明した。

島根県立大学から、参考資料2～4により松江・出雲キャンパスの取組みについて説明をした。

(3) 意見交換

■ 松江キャンパスについての議論

○ 委員

- ・ 新設する地域文化学科国際文化コースにおける、国際交流に関する視点を教えてほしい。

→ (大学) 従来の総合文化学科ではアメリカのみの交流だが、新たに東南アジア、ラオスでの文化交流、第2外国語として、タイ語、インドネシア語の開講を予定している。これからの日本の関わりのなかでも、東南アジアとの交流は欠かせない考える。

- ・ 島根は文化・国際面でグローバル・ローカルの重要な拠点。小泉八雲記念館など、地域の象徴的なものを利用しながら、学生たちが学びを享受できればよい。
- ・ 平成26年に新設した地域共創センターを有効活用しながら、地域の文化を学生が学べるようにしてほしい。

○ 委員

- ・ ラオスとの文化交流は、第1回、第2回会議で話があったように、視点を東アジアから拡大していく取組みで非常に良いことと思う。

○ 委員

- ・ 松江キャンパスで社会人のリカレント教育を進めてはどうか。

→ (大学) COC事業の一環で、履修証明プログラムを開講し、現時点2年目で190名が受講中。現場のニーズ等把握しながら、講義内容・方法の充実を図っているところ。

- ・ 少子化のなかで、大学生生き残りのためにも、地域の職業に直結する社会人のリカレント教育は必要。

○ 委員

- ・ 保育士確保は重要な課題。四大化によって、短期大学部と併せて学びの選択肢が増えることを歓迎。
- ・ 地域文化学科が新設されれば、県立大学内に文系の4年制学科が松江と浜田にできることになる。浜田キャンパス総合政策学部においてもキャンパスの特色、あり方を整理し、ともに学生が集まるような学部、学科になっていただきたい。

■ 出雲キャンパスについての議論

○ 委員

- ・ 大学院看護学研究科の博士課程の設置を要望する。県内病院で四年制大学出身の看護師も増えており、勤務しながら学びたい看護師も多い。地域に役立つ高度な看護人材育成のためにも、博士課程は必要。

○ 委員

- ・ 健康栄養学科について、高齢者介護や医療現場など食の質の向上がこれまで以上に重要になる。4年制化により、短大の時とは違う新しい形での広報が必要。

○ 委員

- ・ 健康栄養学科の4年制化による、在宅栄養ケアの専門的な実践力を身に付ける学びに大いに賛同。
- ・ 県の中では、虚弱高齢者をなくす事が大きな課題。栄養と看護の両方の分野を合わせた博士課程を検討してほしい。

■ 自由意見

○ 委員

- ・ 保育学科について、キャリア教育のためには、4大で学ぶライフデザインなどは短大生も共通で学べればよいのではないかと。
- ・ 保育指針が変更になったことで、保育現場では学び直しのニーズが非常に高いので、学びに生かせないだろうか。
- ・ 出雲キャンパスには、地域医療に共鳴して入学した学生が多い。県内高校生に地域医療の視点でPRしていけば、県内入学率が向上するのではないかと。

○ 委員

- ・ 島根県は観光人材が不足している。地域の文化・歴史を学び、魅力を理解した観光人材の育成が重要。
- ・ 高齢者の健康維持、生きがい作りのために、看護と栄養を組み合わせ、社会人向けの学びの場の提供は必要ではないか。
- ・ 今は、大学が動きだした機会であるため、重点的な広報が必要。

○ 委員

- ・ 保育現場では、職場内の人間関係などにより、就職後2～3年で離職してしまうケースが多い。大学時の実習先に就職することが多いことから、在学時に複数の現場で実習やボランティアを行い、学生が現場を知る機会を積極的に設けてほしい。

○ 島根県立大学長

- ・ 県内からの進学者は年々減少。大学は、アドミッションポリシーのなかで、高校と一緒に県内の生徒を育てるというように発想の転換が必要。
- ・ 浜田の総合政策学部と松江の人間文化学部は、それぞれの学部の特色・目的を打ち出し、人材育成の指針（ディプロマポリシー）を明確にしていく。
- ・ ガバナンスについては、組織の改廃、人事、予算の3つの権限を明らかにすることで、地域の要望に応えられる大学づくりを行うことができる。
- ・ 短大の学生は2年間の目標を持ち、非常に優秀。短大から四年制に編入できる仕組みで、短大と4年制双方のよさを生かす仕組みが必要。
- ・ 高校との連携を今後進めていきたい。

○ 座長

- ・ ガバナンスについては、次回で再度の議論が必要。